

「雪のあし跡 3 (シジュウカラ)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

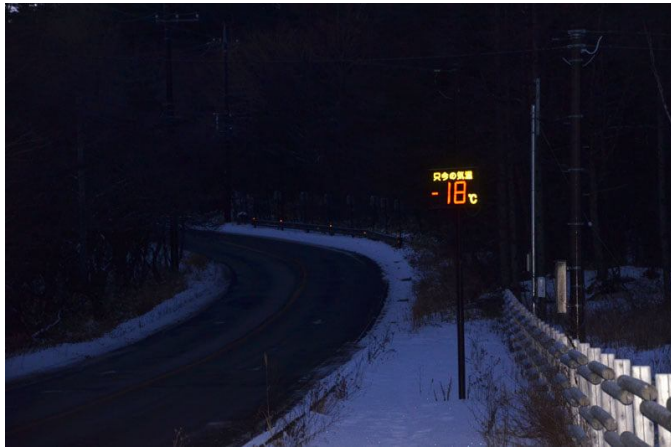
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

雪の上には、さまざまなあし跡がある。それは必ずしも哺乳類ばかりとは限らない。哺乳類の次に多いのは「鳥類」のあし跡である。日本に生息する鳥類(留鳥)は、どんなに寒くても冬眠をする種類はいない。



これはシジュウカラのあし跡である。哺乳類とちがって小型のカラ類は軽い。シジュウカラはカラ類の中では大きいほうだが、それでも体重は成鳥でも 15g 前後しかない。やわらかい新雪にもあし跡が残りやすい。



(国道 146 号線の気温表示)

先日も北軽井沢は -18°C まで気温が下がったが、そんな翌日にも野鳥はたくさん現れ、早朝から元気に飛び回っている。一体どこで眠っているのか、何を食べているのか、あんな小さな体で、丸ごと凍ってしまわないのか、心配になるが大丈夫なのだ。



飛び跳ねるように歩行するので、時々あしを引きずったような痕跡が残ることもある。



いろいろな哺乳類のあし跡に混じって、そんな鳥類のあし跡も発見できる。小型の鳥類の場合、右あし、左あしと、交互にあしを出して歩くことはめったにない。地面や雪面を歩行する時は、両あしとも一緒にピョンピョン跳びながら前進する感じである。



シジュウカラは、飛翔時以外は、ほとんど樹上(木の枝)にいることが多い。地上は危険が多く、降りるのは、餌を探す時のみだろう。しかしこんな雪面で、一体何を食べているのだろうか? 雪を食べるのだろうか? (写真はシジュウカラのオス)